

飯能西中だより



天覧山

8月号

飯能市立飯能西中学校
学校だより
令和6年度 第5号
令和6年8月26日発行

<校訓> 誠・和・進 <学校教育目標> 自立 共生

<目指す学校像> 心のよりどころとなる世界に誇れる学校

一人ひとりが大切にされていることが実感でき家に帰った時に元気よくたいていと言え学校でありたい
飯能西中学校スクールアイデンティティー

この夏の出来事からあらためて思うこと

校長 中村 公一

猛暑の日が続く中、今日から2学期が始まります。今年もこの暑さは9月に入ってからもしばらく続きそうです。コロナなど感染症対策も含め、体調管理については十分に気をつけたいものです。

さて、この夏の間にも社会ではいろいろな出来事がありました。3週間ほど前には日向灘沖で大きな地震があったため、これにともない南海トラフ地震臨時情報（巨大地震注意）が発表されました。この時期は帰省や旅行の最盛期だったこともあり、交通や宿泊、各地のイベントなどに様々な影響が出ました。政府からこのような呼びかけが行われたのは初めてのことであったため、少なからず動揺が広がったのは確かだと思います。すでに政府からの特別な注意の呼びかけは終了していますが、危機が去ったということではないでしょう。過去の例から考えても大地震の発生は時を選んではくれませんから、今日から始まる通常の学校生活の中においても引き続き心構えを持っておこななければなりません。揺れが発生した場合、校舎内であれば天井のボードや電灯など非構造物等の落下から身を守ることを。登下校中であれば塀や家屋、電柱や電線の倒壊に巻き込まれないようにすることが大切です。また、関東地方で揺れによる被害が少なかった場合でも、停電や燃料の不足、流通の混乱や工場の操業停止による物資の不足など、東日本大震災の教訓を思い出さなくてははいけません。東日本大震災や今年の初めに起きた能登半島地震では、守られる立場から守る立場へと変わった中学生や高校生が避難所などで果たし役割は大きかったと聞きます。学校、家庭、地域が力を合わせて乗り越えられるよう、備えを整えていかなければならないと痛感しています。

ところで、この夏の大きな出来事と言えば、パリで開かれた第33回夏季オリンピックを欠くことは出来ません。日本からの代表として参加した選手たちが様々な競技や種目で健闘する様子を、連日、テレビや新聞など様々なメディアが伝えていました。昔とは違い現在はインターネットを介して様々な情報が飛び交うため、人々の関心が集まるものにはネット世論が形成される傾向があります。今回のオリンピックの運営方法、審判やルールの在り方などについても一部では波紋が広がっているようですが、まずは参加した選手本人にとって未来に繋がる有益な経験であってほしいと願うばかりです。今回のオリンピックではブレイキンやスポーツクライミングなど新しい種目が加わり、スポーツ競技においても多様性が認められるようになってきていることを垣間見ることができましたし、スケートボードなど近年加わった競技などでティーンエイジャーが活躍している姿や、競技後お互いに思いやりリスペクトしあう姿を見てほっこりとした気持ちになった人も多いのではないのでしょうか。また、今回のオリンピックはジェンダー平等を示した大会として大きな意義があると言われていています。史上初めて男女同数の出場枠となったり、男女が共にする混合種目が更に増え20種目になったほか、これまで女子種目の後に男子種目が行われることが多かった試合の順番を、男女でバランスよく入れ替えるなど新たな試みがとり入れられています。ジェンダー平等の考え方が世界でも一般的になっていることがうかがえます。しかし一方で、オリンピックが平和の祭典と呼ばれ、せめてこの期間だけは休戦しようという理念があるのにもかかわらず、ウクライナやパレスチナでは未だに戦闘が続いていることを思えば虚しくも感じられます。世界にはスポーツだとかオリンピックどころではない人がいるという現実を忘れてはなりません。

